

今まで英語の「会話表現」とか「口語的な表現」は「熟語(イディオム)」とか「会話の慣用表現」とか言われて、まるで「文法的でない表現」のように扱われてきました。けれども、それは現行の英文法が不備だったため、英語のものとアングロ・サクソン語(ゲルマン語)のロジックが文法化できなかったからです。VSOP英文法は、英語の日常語である**アングロ・サクソン語が、S-V-O-P:ワンパターンになっている**ことに気づきました。これによって、日本人がようやく英語の会話表現を「丸覚え」するのではなく、「言葉の使い方の決まり」として理屈で理解できるようになりました。英語の口語表現は、「**実にワンパターンな語順規則**」で使っています。先に「S-V」と「気持ち判断」を言い、その後ろに「O-P」と「その内容(対象)」を言うような「**ギャル語順**」**になっているのです**。この語順感覚を体得すれば「英語が自由に使える」ようになるのです。さらに、ビジネス英語や学術英語も、このSVOPで組み立てられていることを説明します。

		品詞ではなく、SVOPの位置で使い分けている
1 日目 午後	UNIT-1	気持ち・状態を表すには？ 気持ちや様子を表す 形容詞 の使い方:前置詞が重要な意味を作っている。先に「話し手の判断・気持ち」を言い、その対象を前置詞句で言う。
	UNIT-2	「前置詞」が動きや場所、状態を表す。 英語は前置詞中心で意味を作っており 、動詞中心に意味を作っていない。前置詞+具体名詞と前置詞+抽象名詞では、言葉の働きが違う。
	UNIT-3	「副詞」が「動きを表す言葉」 ＝「動詞」は「動きの様子」を表している。 最も英語的な表現にもかかわらず 習えない。動詞+副詞(句動詞)の使い方は同じ。熟語(イディオム)の一扫。
	UNIT-4	be+名詞:具体名詞と抽象名詞で使い方が異なる。I'm a good time girl. と I'm a girl of [a middle class] family. 具体名詞は対象語(O)、抽象名詞は判断語(V)
2 日目 午前	UNIT-5	Middle position(中位)の重要性 :/V1+[Mid]+V2/: 判断語の中間がmiddle position(中位) 。補助的な判断を表す言葉を入れる場所。「副詞」と呼ばれているがいろいろな種類の言葉を使う。
	UNIT-6	基本動詞の使い方①自動詞 :主語の状況と言う 自動詞の使い方 Chapter 3 go, come, get, make, turn, stand, fall, remain など、自動詞の使い方は「補助語」
	UNIT-7	名詞を後ろから修飾している言葉:ネクサス(Nexus)と呼ぶ 。「形容詞用法」と呼ばれるが、形容詞に限らない。同じ後置修飾の関係代名詞との違いは「話し手の判断(V1)が有無」。
2 日目 午後	UNIT-8	haveの使い方 :「～がある」には have を使う。自・他動詞の両方の使い方をする。熟語(イディオム)の一扫。英語で一番使用頻度が高い言葉:haveの 後ろのO-[V1]-P が重要な情報を表す
	UNIT-9	基本動詞の使い方②:「相手に～させる(使役動詞)」言い方はSVOP。 多くの基本動詞は他動詞で使える :ネクサス(Nexus)の理解が他動詞の理解
	UNIT-10	doing形 は、「～している最中という行為」や「繰り返しの行為」を表す。進行形・動名詞・現在分詞形などの呼び方違いは、SVOPの中の位置の違い。
	UNIT-11	to do(to-不定詞) は「これから 必ず する[ことになっている]という意味。SVOPの何処でも使う。位置によって意味が変わるのは、その位置の働きによる。
3 日目 午前	UNIT-12	Have done/-ed(完了形)と be done/-ed(受動態) 。受け身の意味は be が表し、能動の意味は have が表している。done/-ed は、SVOPのどこで使っても「～し終わっている状態」を表している。
	UNIT-13	他動詞の使い方②:叙述語(P)が動詞の活用形の場合 他動詞の使い方が一番英語的な表現＝ネクサス(Nexus)だが、日本人に一番馴染みにくい。
	UNIT-14	that-svop(that節) は、 SVOPを一つにまとめる働き 。that節もS-V-O-Pの各場所で使う。SVOPの入れ子構造にして文を拡張していく。複文の作り方「Get The Real...英語参考書」Chapter13
3 日目 午後	UNIT-15	8W1H:[who, what, when, where, why, how, which, whose, whom] も、SVOPの入れ子構造。疑問代名詞・関係代名詞など、英文法用語が英語を分かりにくくしている。
	UNIT-16	省略・強調・倒置 :文のいろいろな工夫も、SVOPIになるように語順配置をしている。SVOPIになっていないと文意が伝わらない。
	UNIT-17	従属接続節:when, if, though, because :同じ言葉のまとまりでも、SVOPの位置で働きが違う。SVOの前で使えば文頭句(Header)、SVOの後ろで使えば叙述語(Predicate)。
	UNIT-18	文頭句(Header): V2-O-[P]を主語(S)の前で使う 。分詞に限らずこの使い方をしているので「分詞構文」とか「副詞句・節」などと「 言葉の働きを品詞名で呼ぶ 」ので英語が解りにくくなっている。

※ 受講までに「**世界で一つだけの英語教科書**」をご一読頂いておくと理解が深まります。